

トピックス

平成20年度の 主な活動状況

平成20年度の取組は、共同活動、営農活動ともに活動組織数、活動面積が拡大するとともに、グレードアップに向けた様々な活動が実践されました。ここで主な実績を紹介しますので、自らの活動を振り返り、さらに質・量の充実に努めていきましょう。

共同活動の取組状況

市町数	活動組織数	上段:協定面積 / 下段:交付金対象面積			
		合計面積 (ha)	田	畑	草地
29	371	29,768	26,162	3,574	32
		28,012	24,979	3,001	32

保全の対象となる施設の内訳

延長・箇所数	
水路	5,559 km
管水路	326 km
ため池	128 箇所
農道	3,742 km

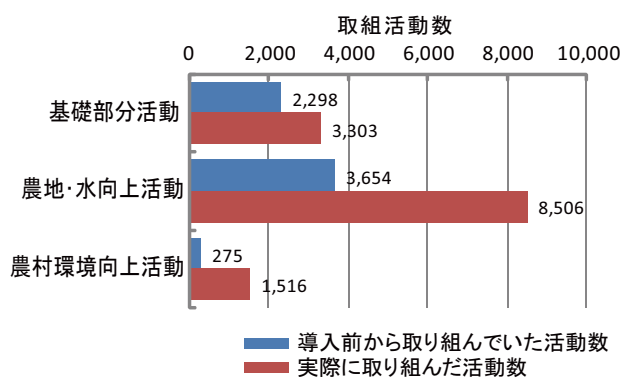
県全体の農振農用地面積に占める取組面積の割合は29%となっています。

営農活動の取組状況

活動組織数と区域数	
活動組織数	先進的営農の取組区域数
44	65

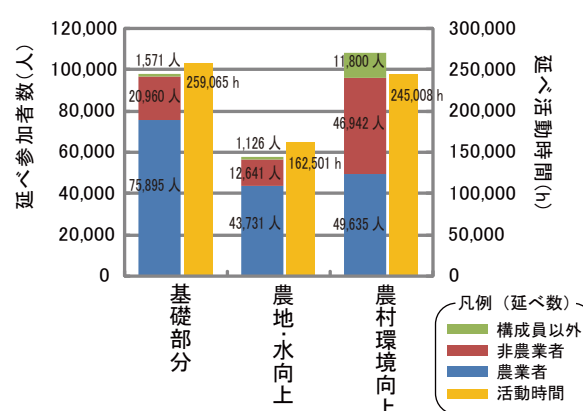
作物ごとの作付面積と関係農家数		
	作付面積(a)	関係農家数(戸)
水稻	138,779	1,130
麦・豆類	596	4
いも・根菜類	21	2
葉茎菜類	320	5
果菜類・果実的野菜	19	1
果樹・茶	176	2
その他	2,241	16

活動の状況



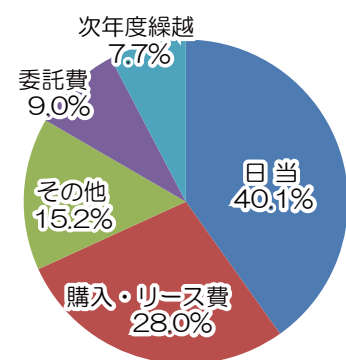
対策導入前に比べ「基礎部分活動が1.4倍」「施設補修等を中心とした農地・水向上活動が2.3倍」「農村環境の向上に向けた活動が5.5倍」実践されました。

活動の延べ「参加者数」「活動時間」の状況



延べ参加者数は26.3万人、活動時間は66.5万時間となっています。参加者の内訳は、基礎部分活動及び農地・水向上活動で農業者8割・非農業者2割、農村環境向上活動で農業者5割・非農業者4割・構成員以外1割でした。

支援交付金の支出内訳



支出内訳は、日当40%、購入リース費28%、委託費9%となっており、8%が計画的な施設補修経費や年度当初の活動資金として平成21年度へ繰越されました。

平成20年度の総支援交付金 1,245,314,695円

活動の質的・量的向上 及び 組織運営の充実強化等に向けて

- ★ 施設を長持ちさせるための計画的な保全の取組を確実に実践しましょう。
- ★ 非農業者や他地区・都市住民の活動への参画を促進しましょう。
- ★ 日当支払いや役員報酬の支払いを抑制し、施設補修や農村環境の向上活動に支援交付金を優先して使いましょう。

体制整備構想について

策定に際しての留意点

- ・性別、職業、年齢にかかわらず、幅広い出席者で話し合しましょう。
- ・出席者から、できるだけ多くの意見を出してもらいましょう。
- ・出された意見を尊重し、地域の考え方をまとめましょう。

平成19年度から取り組む活動組織は、本年度末までに「体制整備構想(案)」の策定が必須となっています!

グレードアップ推進講座 (終了しました)

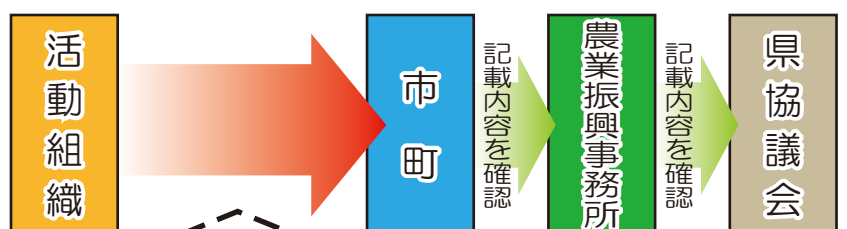
計画的・効率的な体制整備構想(案)づくりに向けて、9月25日、29日、10月2日に研修会を開催し、約600名の方が参加しました。既に策定に向けた検討を進めている「三区町環境保全隊」事務局の鈴木良雄氏から具体的な事例を紹介いただきました。



なぜ、体制整備構想を策定するのか?

体制整備構想は農地や農業用水などの生産資源や農村環境を将来にわたって保全していくための地域の目標です。出来る限り幅広い意見を集約し、とりまとめ、共有していくことが重要です。

***** 体制整備構想(案)の届出スケジュール *****



活動組織から市町への届出期限
H22年3月5日(金)

お知らせ

道の駅への啓発パネルの展示

豊かな農業・農村を未来の子どもたちに

～ 栃木県における農地・水・環境保全向上対策の取組事例 ～

栃木県における取組状況を多くの人に知っていただくための広報活動の一環として、道の駅展示コーナーにおいてパネル等の展示を行っています。近くに立ち寄りの際は、是非ご覧ください。



道の駅もてぎへの展示風景

また、各活動組織の取組状況についても、様々な機会や場所を活用し、積極的なPRに努めましょう。

実施期間	道の駅名	市町名	
10/23 ～ 10/30	はが	芳賀町	展示終了
11/9 ～ 11/16	もてぎ	茂木町	展示終了
12/8 ～ 12/18	那須高原 友愛の森	那須町	
1/7 ～ 1/11	思川	小山市	
2月	きつれがわ	さくら市	時期調整中
3月	ばとう	那珂川町	時期調整中

関東農政局主催「管内活動組織発表会」が開催されました

11月11日(水)、さいたま市文化センター小ホールにて、「管内活動組織発表会」が開催され、管内9県の活動組織、行政関係者など約280名の方が参加しました。

栃木県からは「逆面エコ・アグリ」(宇都宮市)が発表を行い、フクロウとの共生をめざした生態系保全活動や、水田生態系の頂点に立つといわれるフクロウが繁殖できる環境が育む安心・安全なブランド米の取組を紹介し、参加者の注目を浴びました。また、4.7ha(地区内農用地の10%)にもものぼる耕作放棄地を5か年計画で解消する取組や、老朽化した水路をほぼ全線改修する取組などが報告されました。

地域の課題解決やあるべき姿の実現に向けて、本対策を上手に活用しましょう。

栃木県からのお知らせ

『とちぎのふるさと田園風景百選』に積極的な応募を・・・

先人達の努力の中で形成されてきた本県の豊かな田園風景を百年後に継承するとともに、元気な地域づくりの契機とするため、本年度から『とちぎのふるさと田園風景百選』の募集が行われています。

身近な環境に“まなざし”を注ぎ、協働の取組を通じて保全しながら、併せて地域振興をめざすといった趣旨は、農地・水・環境保全向上対策と大いに通ずる部分があります。

応募に要する経費を支援交付金から支出することが可能ですので、全ての活動組織で応募してください。

URL <http://www.shimotsuke.co.jp/select/denen/>

中間年評価に向けたアンケートについて

「施策の中間年評価」の基礎調査として、すべての活動組織にアンケートをお願いしています。この調査は、活動のさらなるグレードアップ支援や対策継続の検討のための基礎としますので、特段のご理解とご協力をお願いします。

調査票は、平成21年12月11日(金)までに市町担当課へ提出してください。

啓発イベント

「ふるさと“とちぎ”再発見シンポジウム」

“ふるさととちぎ”の魅力と地域活動の意義等を紹介しながら、農業の維持や農村環境の保全に対する理解と共感、さらには積極的な参画を促進し、豊かな農業農村を未来の子ども達に継承していくことを目的としたシンポジウムを開催します。また、シンポジウムでは「生きものマップ・写真コンテスト」の表彰式も予定しています。



平成20年度 生きものマップ最優秀作品 (姿川環境保全会)



講師：いわむらかずお (絵本作家)

日時・場所：平成22年2月12日(金)

栃木県教育会館大ホール

第1部：生きものマップ等コンテスト表彰式

第2部：基調講演

「田園風景が美しく輝いて見えるのは」

講師：いわむらかずお(絵本作家)

第3部：パネルディスカッション「農村の魅力、再発見」

多くの活動組織の参加をお願いします。



★主な応募要領

対象風景：栃木県内の農業生産・農村生活及び、これに関連する伝統文化や交流活動等に係る風景

応募者：個人、集落、各種団体、企業、市町、いずれの応募も可

募集期間：平成21年9月1日～平成22年8月31日

応募方法：必要事項を記載した応募申込書+風景写真

(「四つ切」「A4サイズ」で4枚まで可)

応募先：風景の存する市町村担当課

